

## 楽市白河とスマートシティAiCT

総務産業常任委員会



スマートシティAiCTにて

現在、JR白河駅待合室を改装した「えきかふえ shirakawa」と、駅周辺に歴史的建造物を含む既存施設を生かした「楽蔵（らくくら）」をオープンさせている。

総務産業常任委員会は1月24日（水）に福島県白河市の楽市白河、25日（木）に会津若松市のスマートシティAiCT（アイクト）を視察した。楽市白河は、平成12年に市街地の活性化を目的としてスタートしたが、数年間は事業計画が明確でなかったことやまちづくりの専門家が不足していたことなどがあり、事業が思うようにいかない時期があったとのこと。

そのほかに中心市街地市民交流センターの指定管理や賃貸マンションの管理も行っている。

まちづくりをしていくうえで行政、商工会議所、まちづくり会社（楽市白河）などが、それぞれ得意分野を活かすことや責任の明確化、そして有意義なコミュニケーションがいかんにか大事であるかを白河市の事例を通じ、まちづくりの可能性を感じることができた。

当施設は、「若年層の地元定着や地域活力の維持発展を目指す」をテーマに市が官民連携によって整備され、地元企業や大手企業、約30社が入居し、デジタル化の先進地となっている。

施設ができたことにより、雇用の場の創出や若者の地元定着などが期待されている。

今回の視察を通じ、AiCTは今後の私たちの生活において大きな可能性を秘めている施設であると感じた。

（山城 峻一）

## 旧久保家と給食センター

社会文教常任委員会



旧久保家住宅で学芸員の説明を聞く

社会文教常任委員会は1月29日（月）に、上平地区の「旧久保家」住宅施設を視察した。学芸員から、古民家としてのつくりや歴史的価値などの説明を受けた。

古民家の構造として目にとまる大黒柱、梁、桁が迫力を持って我々を向かい入れた。また、床の間の違棚にある筆返し、付書院の落とし掛け裏の壁未仕上げなど、当時の家主の栄華が伺える。古民家として専門家の説明を要した見学ツアーができる構造はしているようだ。

現在は、清掃や片付け

を行っているが、今後、古民家ブームを活用した地域交流の場など、利活用を期待する。

その後、「坂城町食育・学校給食センター」を視察し、給食の試食を行った。給食センター所長より、センター内のレイアウトを含め、衛生面の安全性確保について、魚肉動線、野菜動線、調理、配送区域、洗浄、回収区域をエリア分けしているとの説明を受けた。

食材は、地元産を優先し、県内産、国産の順に配慮した仕入れを行っている。食材のトレーサビリティの問い合わせがあれば、説明できるとのことである。栄養教諭の説明では、必要なエネルギー、栄養素を確保し安全でおいしく、興味ある献立となるための工夫をされていることがわかった。

その日の献立は、ナン、牛乳、野菜たっぷりスープ、ドライカレー、フルーツポンチであった。皆で大変おいしくいただきました。

（水出 康成）